

# 医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願ひ

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	ICU・救命救急病棟を起点とした病棟間ハンドアウトの有用性の検討
研究責任者	飯田航也
研究実施体制	聖隷浜松病院 薬剤部
研究期間	2019年8月21日～2020年2月29日
対象者	2019年4月から2020年1月までの間に聖隷浜松病院ICU・救命救急病棟に入院し、薬剤使用にあたって薬学的介入が必要であった患者を対象とします。
研究の意義・目的	ICU・救命救急病棟では昨年度から、経時的な患者情報の把握と、それにより適切な薬学的管理を行うことを目的に、薬剤師による患者ラウンドを行っています。超急性期病棟であるため多くの患者は状態が安定すると早期に後方病棟へ転棟します。しかし、後方病棟へ患者が転棟していく際、ICU・救命救急病棟で得た患者情報を後方病棟の薬剤師に共有する機会がなく、後方病棟の薬剤師がタイムリーに患者情報を得ることが難しい現状があります。その結果、患者情報を把握するまでに時間を要し、適切な薬学的介入が遅れたり、十分な介入ができず問題を抱えたまま退院してしまったりする可能性をはらんでいます。そのため、それぞれの病棟の薬剤師間で情報を共有化していくことは重要です。そこで、本研究ではICU・救命救急病棟で得た情報を元に、患者情報共有のための病棟間ハンドアウトの有用性を評価することを目的とします。
研究の方法	・病棟間ハンドアウトを利用し、情報共有を行った患者について、介入内容、介入件数、情報共有後の後方病棟による介入件数を調査します。 ・患者情報として、電子カルテより以下の項目を調査します。 年齢、体重、身長、性別、臨床検査値（クレアチニン、eGFRcre、AST、ALT、ナトリウム、カリウム、無機リン、カルシウム、LDLコレステロール、HDLコレステロール、中性脂肪、好中球数、血小板数、PT-INR、HbA1c、血糖値）、処方薬剤、疾患名、既往歴、患者基本情報、診療科、食事摂取量、尿量、排便回数、血圧、呼吸数、脈拍、飽和酸素濃度 ・病棟間ハンドアウトは電子カルテの薬剤管理指導システムを用いて作成します。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 薬剤部 (氏名) 飯田 航也 TEL:053-474-2222(代表) 9:00~17:00 平日

